

水と災害

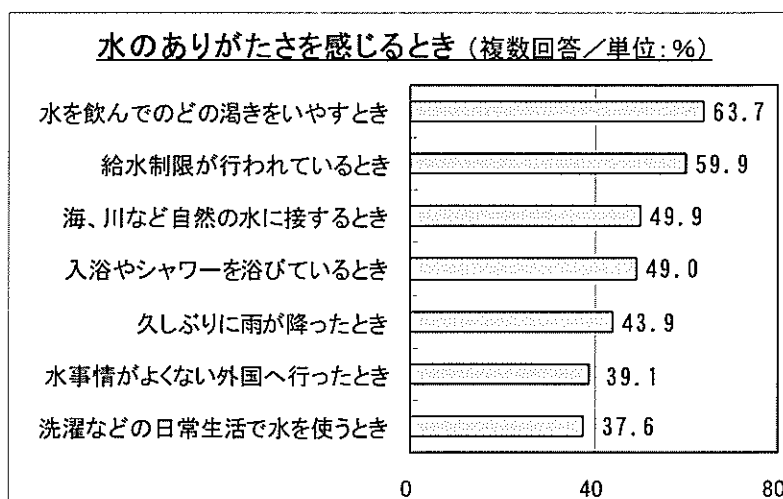
Q.水のありがたさを感じるとき？（11択+その他）

◇ありがたさを感じるトップ3は

『のどの渇きを癒すとき』『給水制限が行われているとき』『自然の水に接するとき』

大都市生活者が「水のありがたさ」を感じるのは、どんなときでしょうか。

1位は『水を飲んでのどの渇きを癒すとき』（63.7%）、2位は『給水制限が行われているとき』（59.9%）、3位『海や川などの自然の水に接するとき』（49.9%）、4位『入浴やシャワーを浴びているとき』（49.0%）、5位『久しぶりに雨が降ったとき』（43.9%）、6位『水事情がよくない外国へ行ったとき』（39.1%）、7位『洗濯などの日常生活で水を使うとき』（37.6%）などという結果になりました。

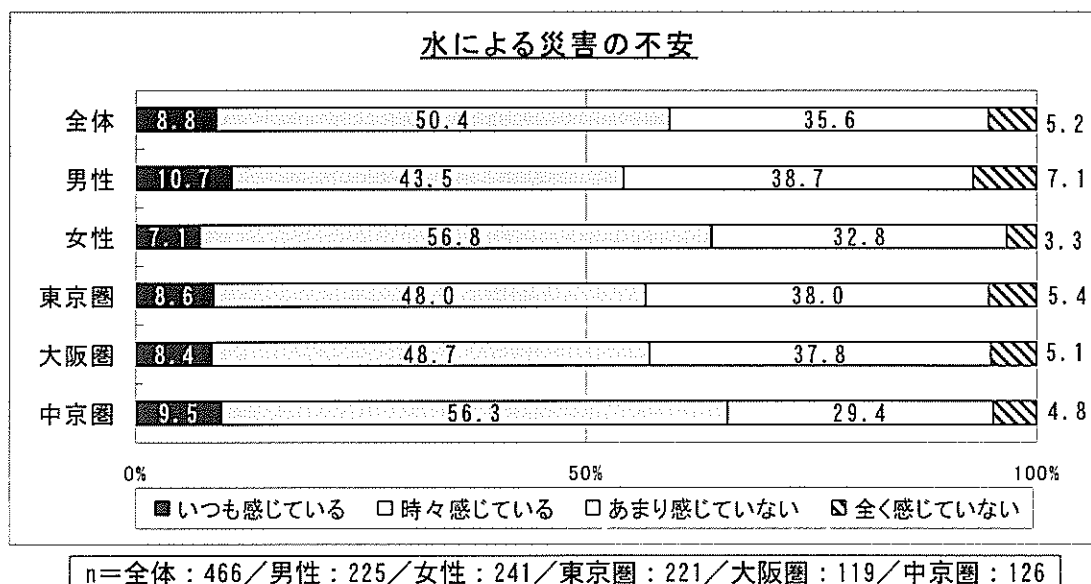


Q.日々の生活の中で、水による災害が起こることに不安を感じているか？

◇約6割が水による災害の不安を感じている

水による災害の不安について聞いたところ、全体では『いつも感じている』が8.8%、『時々感じる』が50.4%で、過半数の59.2%が何らかの不安を感じているという結果でした。

男女別で見ると、男性に比べて女性が不安を感じている率が高く、また居住地別では、中京圏が相対的に不安を感じている率が高いという結果でした。



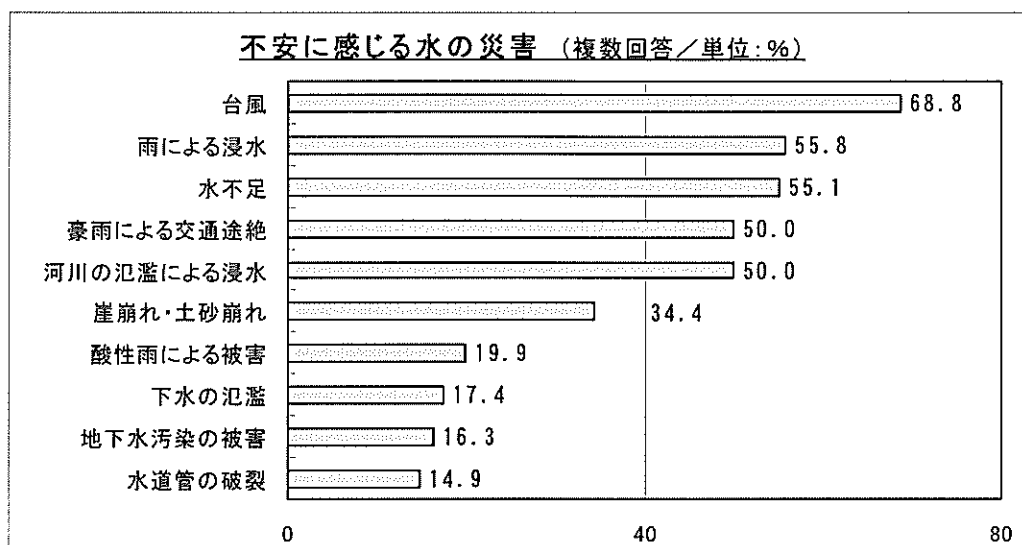
Q. 具体的にどのような災害に対する不安か？

(17 択＋その他／前問で『いつも／時々感じている』人だけ回答／N=276)

◇不安を感じる水の災害のトップは『台風』で 68.8%

前問で水による災害について、『いつも不安に感じている』『時々不安に感じる』と回答した人だけに答えてもらいました。

トップは『台風』で5人に3人以上が不安を感じるとなりました。以下、『雨による浸水』(55.8%)、『水不足』(55.1%)、『豪雨による交通途絶』(50.0%)、『河川の氾濫による浸水』(50.0%)、『崖崩れ・土砂崩れ』(34.4%)、『酸性雨による被害』(19.9%)、『下水の氾濫』(17.4%)、『地下水汚染の被害』(16.3%)、『水道管の破裂』(14.9%)などが続きました。



Q. 災害等で水道が止まってしまったら？

◇『行政等の救援の水』を期待

地震などの災害により家庭の水道が止まってしまった場合、「飲み水」「料理」「洗面」「風呂」「水洗トイレ」それぞれに使う水をどうするか聞ききました。

その結果、「水洗トイレ」以外は『行政等の救援の水』を使うという回答がトップでした。直接口にする「飲用」や「料理」は『常備してある水』の比率も高く、「風呂」や「水洗トイレ」では『雨水』や『川の水』など“自然の水”の使用を想定している人も見られました。

	飲用	料理	洗面	風呂	水洗トイレ
救援用・行政の給水を待つ	①71.3%	①70.7%	①51.2%	①41.2%	③29.1%
常備してある水	②66.9%	②53.5%	②17.2%	6.2%	5.1%
近所・親戚の人に分けてもらう	③26.1%	③22.1%	12.1%	7.6%	4.7%
井戸の水を使う	12.1%	13.2%	②17.2%	13.2%	13.6%
雨水を使う	7.9%	6.8%	②17.2%	②18.0%	①47.8%
川の水を使う	4.5%	3.6%	14.9%	③14.9%	②31.8%
ため池の水を使う	0.4%	0.6%	3.2%	2.8%	17.6%
水は使わないですませる	2.8%	12.3%	20.0%	37.2%	18.7%
途方にくれる	9.6%	7.2%	7.9%	10.8%	13.4%

Q. 大震災による火災発生を想定した「消火用の水」の準備状況は？

◇全体で約5割が『ミネラルウォーターを買い置き』

◇『消火栓等の場所を知っている』のは6人に1人

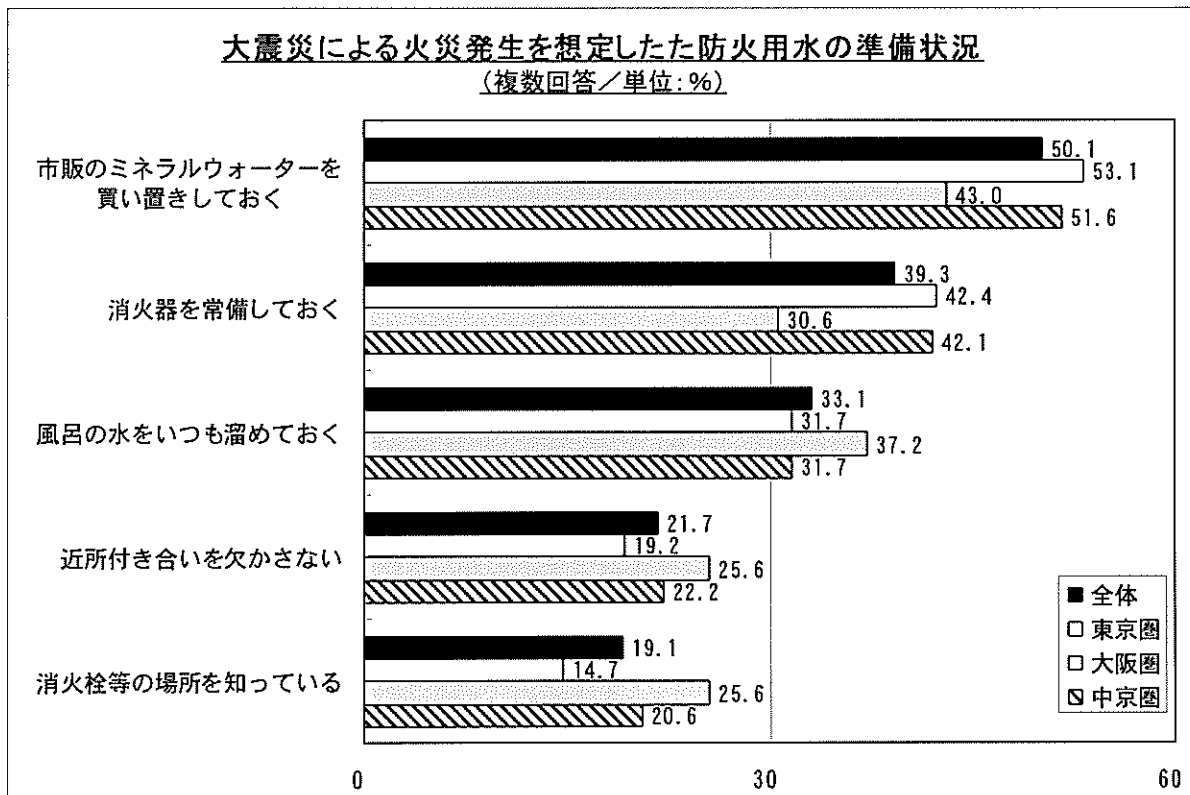
大地震に伴う火災は、特に住宅が密集している大都市圏では、人的・物的被害をより深刻なものにする可能性があります。地震によって水道が止まってしまったときに発生する火災に対して、大都市圏の生活者はどのような形で「消火用の水」を準備しているのでしょうか？

消火用の水に関する5項目について聞きましたが、もっとも実施率が高かったのは『市販のミネラルウォーターを買い置きしておく』で50.1%でした。

『消火器を常備しておく』と『風呂の水をいつも溜めておく』を居住地別で見ると、前者に関しては東京圏、中京圏で実施率が高く、大阪圏では実施率が低かったのに対し、後者は逆に大阪圏で実施率が高いという結果が出ました。

『消火栓等の場所を知っている』は、全体では19.1%で、5人に1人が知っているというのが現状のようです。

『風呂の水をいつも溜めておく』は、50代以上では過半数の51.2%なのに対して30代は28.2%の実施率。20ポイント以上の差が見られます。また『消火器を常備しておく』は、50代(55.2%)と20代(30.4%)で24.8ポイントの差が出ました。



大震災による火災発生を想定した「消火用の水」の準備状況 (年代別比較抜粋)

	全体	20代	30代	40代	50代以上
風呂の水をいつも溜めておく	33.1%	24.1%	28.2%	27.4%	51.2%
消火器を常備しておく	39.3%	30.4%	31.6%	38.5%	55.2%